

事業所名

グループホームあずみ

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成17年 3月23日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 元介護支援専門員
資格・経験 看護師(28年)、介護支援専門員(4年)、社会福祉士
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、老人福祉施設(9年以上)

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) (記述) ○「職員は入居者の方を無条件に敬愛します。」「入居者との信頼関係づくりを最優先します。」「喜びと楽しさが満ちるホームをつくります。」という明確な理念を持ち、どうしたらもっと入居者の方が幸せになれるかを常に考えている。 ○残存機能の向上に向け、職員と入居者が一緒になって取り組んでいる。オムツの取れた時の気持ち良さなど、その人にとって喜んでもらえることなという思いで努力を続け、『生活リハビリがんびり表』と作り、歩行運動・起立運動など、自分が決めたりハビリができたら色鉛筆で色を塗るようにしてあり、一日一日とカラフルに塗られた色が、喜びを表しているようだった。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		○
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ○天井からの明り取り、壁には日本画が掲げてあり、落ち着いた雰囲気環境を作っていた。 ○職員の優しく思いやりのある接し方は入居者に自信を与えているようで、和やかでありゆったりした時間が流れている。 ○排泄時に時間がかかってもプライバシーに配慮しつつ、入居者の希望があれば一緒に見守っている。 ○入居者の訴えをすぐ聞くようにしており、入居者は安心して生活ができる。 ○事務所の戸は常に開けてあり、入居者が遊びに来て話をして帰られる。職員と入居者の信頼関係がしっかりとできており、日常の会話の中から、その人らしく見守りと寄り添いの介護をしていることが感じられた。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○「行き場のない人が安心して介護が受けられる場」と考え、「動けなくなっても、本人、家族が望まれるのであれば居ていただく」という方針で、寝たきりで経営栄養の方など介護度の高い方も受け入れている。

○残存機能の向上が入居者の幸せにつながることを理念に掲げ、「おしめはずし」には特に力を入れている。おしめを使用していた方が失禁パンツになり普通パンツになった例もあり、家族職員共に喜んでいる。

○毎日する運動や目標を決め、それができたら『生活リハビリがんびり表』に色を塗るという取り組みをしており、継続して頑張ることにより筋力が維持向上し、立てるようになった、歩けるようになったと成果が出て入居者にも家族にも喜ばれている。

○職員の勤務体制を整え、午後9時まで入浴できる。

○家族はもちろん近所の人、ボランティアの人の訪問があれば食事の無料提供を行っている。地域の人は気軽に声を掛け、行事には招待して交流に努めている。

○毎月一回避難訓練を行い、安全対策にも日頃から気をつけている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

○ホームの買い物にドライブを兼ねて入居者も一緒に付いて行っているが、遠慮をしてなかなか自分の物を買おうとされないとのこと。今年は“自分の欲しい物を買うために出かける”という事してみたいと管理者の方も抱負を語られており、“あれが良いこれが良い”と選ぶのも楽しみの一つなので、ぜひ実現してもらいたいと思う。

○「外に出て危険な目にあったり行方が分からなくなると困るので」と家族からの要望があり、玄関の扉がタッチセンサー方式になっており、一人では屋外に出にくい環境がある。広い敷地で庭もゆったりしているので、何か工夫をして庭への出入りも一人でできればと思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援		○
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ○調理後の食器や鍋、食後の食器洗い、畑仕事をしてこられた人には菜園での野菜作りや草取りを職員と一緒に行なうなど、職員は入居者の趣味や以前の経験を生活の中に生かし、その人の力を発揮できる場づくりができています。 ○家族が持ってきてくれたノートに自分の名前や住所を毎日少しずつ書いている方もおられ、あらゆる面で職員の受容の姿勢や励ましが入居者の力を引き出し、それが自信につながり残存機能の向上に役立っている。 ○居室に入るときはノックをし、声を掛けてから行なっていた。排泄介助で一緒にトイレに入ることはあるが、入居者の希望ということでプライバシー保護については配慮ができていた。 ○失禁があっても穏やかな対応でトイレに誘導して介助し、入浴の介助も必要以上の介助はせず一人ひとりの入浴としている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ○毎月想定を変えて避難訓練を行なっている。転落防止のため夜間は低床ベッド、転倒防止では室内でも靴を履くようにしている。夜間はナースコールを押してもらい、トイレ誘導やポータブル誘導を行なっている。 ○代表者は職員の研修に熱心で、勤務として参加できる。講師を依頼してケアプランの勉強会も継続して行なっている。情報共有に力を入れ全介助が必要な入居者の場合、注意点や体位変換時の様子などを写真にしてファイルし説明も加えているので、誰が見ても分かりやすい。 ○鼻腔栄養を必要とする入居者の受入れでは職員の戸惑いも大きかったが、技術手順やポイント、注意事項を書き出すことによって、職員は不安なく行なえるようになった。		